

第4問 (20点)

C P A製作所では、個別受注生産により製品の製造を行っている。製造原価の計算は、実際単純個別原価計算を採用している。下記の【資料】は当月(11月)製造・販売に関するものである。

【資料】

1. 製造指図書別原価計算表の一部抜粋

製造指図書番号	直接材料費	製造間接費	備考
# 101	245,000 円	576,000 円	10/13 製造着手 10/30 完成 11/4 得意先引渡
# 102	(10月)288,000 円	(10月)372,000 円 (11月)48,000 円	10/24 製造着手 11/10 完成 11/15 得意先引渡
# 201	264,000 円	360,000 円	11/2 製造着手 11/20 完成 11/23 得意先引渡
# 202	321,000 円	456,000 円	11/8 製造着手 11/26 完成 11/30 現在未引渡
# 203	500,000 円	184,800 円	11/18 製造着手 11/30 現在仕掛中
# 202-a	3,000 円	24,000 円	11/20 補修開始 11/24 補修完了

なお、#202-aは当月#202の一部に仕損が生じたため、その補修のために発行した指図書である。

2. 直接労務費の実際賃率は1時間当たり1,500円(前月も同じ)である。
3. 製造間接費は公式法変動予算にもとづき予算額を設定しており、直接作業時間を基準に予定配賦している。年間予算額は12,960,000円、年間基準操業度は10,800時間である。
4. 製造間接費の実際発生額は1,082,100円であった。

問1 仕掛品勘定の記入をしなさい。

問2 月次損益計算書を作成しなさい。なお、原価差異は当月の売上原価に賦課することとし、原価差異が不利差異の場合、金額の前に△を付すこと。

第 5 問 (20 点)

当社は、実際総合原価計算を採用し、製造原価の算定をしている。下記の [資料] にしたがひ、各問に答えなさい。

[資料]

1. 当月生産・販売実績データ

月初仕掛品量	240kg	(40%)	月初製品量	240kg
当月投入品量	1,980		当月完成品量	1,900
合 計	2,220kg		合 計	2,140kg
月末仕掛品量	320	(30%)	月末製品量	180
当月完成品量	1,900kg		当月販売量	1,960kg

2. 製造間接費の配賦に関して

製造間接費は公式法変動予算に従ひ、加工量を基準に正常配賦している。年間予算額は変動費予算が 19,200,000 円、固定費予算が 28,800,000 円であり、年間正常加工量は 24,000kg である。

3. 当月の財務資料

	直接材料費	直接労務費	製造間接費配賦額
(1) 月初仕掛品	431,050 円	93,110 円	?
(2) 月初製品	432,076 円	230,324 円	?
(3) 販売単価			6,000 円
(4) 販売費及び一般管理費：			
変動販売費			180,400 円
固定販売費			324,000 円
一般管理費 (すべて固定費)			603,400 円
(5) 直接材料当月仕入高			3,731,000 円
(6) 直接材料月初有高			654,000 円
(7) 直接材料月末有高			821,000 円
(8) 直接工直接作業賃金当月支払高			1,826,000 円
(9) 直接工直接作業賃金月初未払高			604,000 円
(10) 直接工直接作業賃金月末未払高			602,000 円
(11) 製造間接費当月実際発生額：			
変動製造間接費			1,521,400 円
固定製造間接費			2,401,200 円

4. 棚卸資産の評価は先入先出法とする。なお、直接材料費は工程始点で全量投入されており、前月に仕損は生じていない。

5. 原価差異が生ずる場合、当月の売上原価に賦課する。

6. 製造原価のうち、固定製造間接費以外に固定費となるものはない。

問 1 全部原価計算方式の月末仕掛品原価および当月製品製造原価を答えなさい。

問 2 全部原価計算方式の月次損益計算書を作成しなさい。

問 3 直接原価計算方式の営業利益がいくらになるか答えなさい。